第４回南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会議事録

日時　令和５年２月10日　　午後３時から午後４時55分

場所　南魚沼市民会館　多目的ホール

参加　委員15名
　　事務局５名

議事
（１）配布資料の説明
【資料】小中学校の適正規模に関するこれまでのまとめと今後の進め方について
1.今後の進め方について
2.学校の適正規模について
3.小規模特認校の在り方について
（２）その他

１．開会（学校教育課長）15：00～
２．挨拶（教育長）（塩川委員長）
３．傍聴希望者について（許可）
４．議事
（１）配布資料の説明（事務局より資料に沿って説明）
【資料】小中学校の適正規模に関するこれまでのまとめと今後の進め方について

委員長１つ目の議論今後の進め方について委員の皆様から順番に意見をお願いします。

委員　今生まれた子どもたちが 25 年後にどうなるかということを考えると非常に危惧されますので、旧町くらいの単位で統合をした中で、小中一貫校も含めて子どもたちがきちんと教育を受けられるような環境を作ることが自分たちの責務だと思っております。

委員　20 年後、30 年後と長いスパンで人口数を見ながら統合を考えなければいけないと思っています。まず、子どもたちの教育環境を一番に考えてそれから統合ということで、私は大勢の中で教育していくことが大切だと思っています。一番に考えることは子どもの教育環境における人数だと私は思っております。

委員　地域から小学校がなくなるのは地域の痛手だという意見が、ある部分で的を射ていると思いました。１つ目の議題で、適正規模の目安を設定して時間軸を 10 年 20 年 30 年と設定してフレキシブルな見方をしていくのはいいなと思いました。

委員　今日提案いただいた時間軸というのはこれからの議論で最も重要になってくると思います。どういう形で統合・再編するにしても今ある学校がこれからどうなっていくかを時間軸で考えるためのロードマップを作っていく必要があると思います。また、学校統合については行政主体のものと住民の要望によるものと 2 つあると思いますが、どちらが良い形の統合になるかと言うと、当然地域・保護者の願いがベースになっていくことだと思っています。先ほど申し上げたロードマップの中にギリギリのタイミングがあると思います。地域によって先を見据えたときに、意見収集をしていかないといけないタイミングがあると思いますので、そういったものをロードマップで示していってそれらを時間軸の中に入れて動いていく必要があると思っています。

委員　適正規模、適正配置についてはこれが最低限だと思っています。地域コミュニティという点で、小学校は地域とのつながりが深く、そこに小学校がなくなると過疎化が進むと思います。小学校のありなしは地域によって考え方も違ってきますし、上田は小学校がなくなってしまうと本当に過疎に一層拍車がかかります。適正規模や適正配置についてよくわかりますが、上田も統合したばかりですので、時間軸を考えなければいけないと思っています。すぐに統合となると大変な思いをするのは保護者ですので、よく考えて進めていただければと思っています。

委員　五十沢に住んでいて、子どもがどんどん減っていくのを目の当たりにしています。子どもが減って過疎化が進むことは仕方がないことなので、その中でもより良い教育ができるように、皆さんに頑張っていただければと思います。

委員　20 年 30 年先を見据えて物事を進めていくことは私も賛成です。人口減少は今後も続き目を背けずに考えていかなければいけないと思いますので、進め方としてはいいと思います。適正規模や適正配置については、小学生・中学生は多感な時期に大勢の人と関わって学んでいくことが将来に大きく関わってくると思うので、できるだけ多くの仲間がいる中で学校教育を過ごせるように我々大人が進めていければと思っております。

委員　1 つ目の議論については事務局の言うように目安を設定して必要な修正を行いながら進めていく考えでいいと思います。市内 12 の地域づくり協議会がありますが、平成 19 年から令和 3 年の住民基本台帳の人数を見ると 12 の地域のうち世帯数が減っていたのが上田地区と五十沢地区であります。これから女性の社会進出が進み核家族世帯に合った社会にしていく中で、学童の比率も増えますし、地域の公園に子どもたちの姿が見えなくなります。設置のルールがあると思いますが、小規模特認校の数を増やして、柔軟に適正規模校に持っていくのがいいと思います。

委員　津南中等教育学校に行く市内の中学生が増えていると聞いています。八海中学校が適正規模を満たさなくなるという中で、六日町中学校と合併を考えたときに八海中学校を小

規模特認校にしたり大和中学校を小中一貫校にすることで不登校の子を救うことができるのではないか。中学生の流出を止めることが大事だと思う。北里保健衛生専門学院に大学の学部が設置されるので、そこを目指す特進クラスを設けたりするのも考えていいのではないか。

委員　適正規模ということでは、前回の答申に基づいて時間軸の中で柔軟に対応していければと思っています。小中一貫校や特認校の規模についても先進地域からの情報をいただければ進めることができるのかなと感じています。やはり地域の思いが強い学校ですので、アンケートなどで地域へ話を広げて議論を進めていただければと思っております。

委員　1 つ目の議論について、異論はありません。物事を進める中で基準が必要なことはよくわかります。基準でなくて目安であり、修正しながら進めるというのはとてもいいと思います。地域としてはどこまで残してもらえるのか、どこまでぎりぎりやっていけるのかが問題です。学校を地域に開いて建物を利活用できると思うので 50 年持つのであれば持たせたいという考えです。時間軸が大切で、10 年 20 年先ではなくこの地区ではこの辺までという風にずらしながら見ていき、それまでに市民を巻き込んで自分の意見も反映されているとこがわかる状態で進めていくことで地域の理解も得られると思います。

委員　1 学級 20 人いると学習活動も生活面も色々な考えに触れながら学んでいけると感じます。何回も話が出ていますが、複数学級あって 1 つの集団の中で人間関係を組み替えながら大きくなっていくことが子どもたちにとって 1 番いいと思います。保育所から小学校まで同じメンバーだといくら配慮しても固定化してしまうのは否めないと思います。適正規模という面では地域や保護者に丁寧に説明して理解してもらい、複数学級をいずれ目指していければと思います。非常に地域の方が学校を大事にしていて、地域から学校がなくなるのは実情は分かりますがつらいことです。一貫校でも統合校でもこれまでと同様に子供たちをきめ細かく見ていくことを理解していただいて進めていくのが大事だと思います。

委員　考え方については記載いただいた内容に賛成です。子どもたちが保護者になって子育てをすることになった時に南魚沼で子育てをしたいと思ってもらえるように進めていけたらいいと思います。

副委員長　子どもたちのことを中心に考えたときに適正規模というのは必要になってくると思います。ある程度の人数がいてコミュニケーションをとりながら大人になっていくことが必要だと思います。今保育園から小学校までずっと一緒のメンバーで過ごす学校も多いと思いますが、異なる集団で関りを持つことは非常に大事なことだと思います。丁寧な説明と、肩を押しながら地域の願いを組み込む議論を進めていかないと難しいと思います。合併を繰り返すのは避けなければいけない。20 年 30 年先のことを考えて合併を組んで

いかないと地域のまとまりや地域を大事にするということが生まれないのではないかと思います。上限の学級も考えながら進めなければいけません。大きくすればするほど大変なこともあります。そういったことは子どもたちに影響しますので、時間をかけて議論を進め、形作ったところでスタートするのがいいと思います。南魚沼市では 400 人程度が上限だと思います。大きい集団だとうまくいかない子どものために特認校制度の学校は必要だと思いますし、文部科学省から不登校の子のための学校を作るという話も出ていますのでそういった形で地域に学校を残すのも一つの方法になるのではないかと考えております。

委員長　ご意見ありがとうございました。今後の進め方については、事務局の提案と概ね一致していたと思われます。事務局提案の進め方について賛成の方は挙手願います。

委員　全員挙手

委員長　ありがとうございます。今後の進め方については事務局提案の通り決定いたしまし
委員長２つ目の議論について事務局から説明願います。

教育部長　先ほど委員の皆様から２つ目の議論も意識した内容でご意見をいただいております。今出てこなかった意見や、より具体的なご意見をお持ちの方がいらっしゃるのかを含めてご意見をいただけるとさらに議論が深まるのではないかと思います。

委員長　前回の答申で行った地域特性の配慮を行うのか、あるいは行わないのかを伺います。合わせて適正規模についても今まで出た意見を踏まえてご意見を伺います。

委員　地域特性については考えるべきだと思います。

委員　平成 20 年の最終答申にある地域特性を全く考慮しなくていいということはないと思いますが、一律ではないにしろ文科省の適正規模にもっていくことが必要だと思います。

委員　南魚沼市では３つの地域が１つになって何十年も経っていますが、大きい括りの中でエリアを違う形に分けるのであれば学校を軸にしてコミュニティを再編する考えもあるのかと思います。

委員　地域特性という面で雪深さも考慮していただきたいと思います。

委員　地域特性は必要だと思います。中学校に集まるので、そこを踏まえて人数を考慮した方がいいと思います。

委員　　適正規模は必要だと思います。地域特性についても街中の地域とそれぞれの地域は考えが違いますので、地域の方に統合の時期などの考えを委ねた方がいいのではないかと思います。

委員　　地域特性は考慮した方がいいと思いますし、適正規模についても外からの意見を吸い上げて進めていくのがいいのではないかと思います。

委員　　南魚沼市は３地区それぞれ特性があるので、考慮して進めていくのがいいと思います。塩沢地区でも特に上田地区は特性が違うので、考慮していただければと思います。

委員　　地域特性はその地に根差した学校作りという面でも不可欠なことだと思いますし、旧 3 地区の特色や各小学校区にある力が生かされた地域特性をアピールして学校作りが進んでいくといいなと思います。

委員　　地域としてぎりぎりどこまで頑張れるか、地域をどこまで巻き込めるかということが大事だと思います。学校や保護者だけに任せるのではなく地域も協働してやっていかないといけないと思います。学校・家庭・地域がそれぞれ連携して地域に誇りや愛着を持たないと子どもは残りません。時間的なスパンで区切るというのは考えをまとめるうえでいいと思います。教育の有効性はもちろんですが、地域特性についても考えていただければと思います。

委員　　今は子どもたちにとってどういう教育環境が必要なのかその中で地域の特性をどのように生かしていくかを考えるべきだと思います。合併した旧石打小学校は学校がなくなったから繋がりがなくなったかと言うとそうではない。旧町や旧村にこだわる前に、子どもたちにとってどういう教育環境が良いのかというのを優先に考えるべきだと思います。そこに旧町や旧村の特性をどのように繋げていくのかを議論していくべきだと思います。

委員　　地域特性を考慮しながらも人口が減る中でどこかで思い切った改革をしなければいけない。地域の子どもは地域が関わって育てるというのが大事だと思います。

副委員長　子どもを中心に語りたいと思っています。地域の理解が必要なので、理解を得ながら子どもを中心にどんな学校作りをしたいのかを考えていくことが大事だと思います。学校が先か地域が先かではなく、子どもを中心に語ることが多くの方が耳を貸してくれることになると思います。

課長　　資料５ページ小規模特認校について説明

委員長　　小規模特認校について、ご意見を伺います。

委員　　旧塩沢町の時に栃窪小学校と塩沢小学校との統合の話がありましたが、栃窪小学校は栃窪地区の住民の意思により残すことになりました。今回の学区再編等検討委員会でも特認校をどういう形で残すのかも議論すべきだと思います。不登校について学校という組織でやるのか、別のやり方でやるのか難しい問題になります。学校という組織に馴染めない子がいるので、別で議論すべきだと思っています。

委員　　後山に住んでいる子どもが他の学校に通えるか。また、後山に子どもがいなくなっても学校は運営できるのか。

教育部長　まず、後山に住んでいる人が他の学校に行けるかどうかですが、後山に限らず具体的な理由があれば学区外就学という制度によって他の学校に通うことができます。また、後山に子供がいなくなっても学区外の子どもだけで運営できるかということですが、運営はできます。学区外から通える学校ということで認定を受けていますので、子どもたちがいれば運営はできますが、地域の方が地域の子どもがいなくなった時にそこに学校を望むのかということも踏まえて判断すべきだと思います。

委員　　中学校の特認校も設置できるか。また、場所的にも特認校じゃないと集まりにくいところもあると思うが、基準はあるのか。

教育部長　設置はできます。基準は今のところないですが、県内では小学校は 443 校のうちの 8 校、中学校 229 校のうち 2 校となっており、特認校は特別な許可なので一つの市にいくつもあるのは不思議な感じですが、議論を深めるべきだと思います。

委員　　南魚沼市に特認校が 2 校あることはすごいことだと思います。行政的にどれほどの経費がかかっているか考えると、特任校への心意気を感じます。中学校に馴染めない子や、特性が心配されることもあると思います。そういった子を中心に考えたときに、特認校は選択肢になります。その子どもと親御さんにとって、選択肢があることはとても心強い味方になってくれると感じています。財政的な厳しさもあると思いますが可能な限り続けていただければ、子どもたちにとってもありがたいことだと思っています。中学校の特認校の話が出ましたが、今中学生も大変な状態になっていると思うので特認校にするかは別として受け皿の拡充も視野に入れていただければと思います。

委員　　資料の中に募集は若干名とありますが、大体何人くらいか。

教育部長　学校の規模は 15 から 20 人です。

委員　　現実的に、中学校が決まっているから通えないとか特認校が栃窪と後山にしかないから通えないということはあるか。

教育部長　特性が多様化している中で様々なタイプの学校があればいいというのは分かりますが、きめ細かく対応できているかというとできていません。特性のある子が通うための学校が近くにあればいいとなると地域にいくつもそのような場所が必要になってくるので、それは難しいと思います。

５．次回の開催予定：3 月 27 日（月）

６．閉会